

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回和泉市社会教育委員会議
開催日時	令和4年10月7日（金） 10:00 ～ 11:15
開催場所	和泉市役所 3階 3A会議室
出席者	社会教育委員（8／9名出席） 傍聴者 1名
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付及び委員の紹介 2. 教育長挨拶 3. 教育委員会事務局組織及び事務局職員の紹介 4. 議案 議長及び副議長の選出について 5. 報告 （1）社会教育団体に対する補助金について （2）和泉市生涯学習・スポーツ推進計画骨子案について 6. その他
会議の主旨	社会教育委員は、社会教育法第17条の規定に基づき、社会教育に関する諸計画を立案し、教育委員会の諮問に応じて意見を述べるため、定時又は臨時に会議を開催する。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（次回会議出席者の確認を得ている）
その他の必要事項	

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（司会進行：事務局）

・事務局より会議開催についての説明

本会議は公開することとなっており、傍聴者が1名おられることを報告。
会議資料の確認。

1. 委嘱状交付及び委員の紹介

教育長から代表者1名に委嘱状を交付。（感染症対策のため他の委員には机上配布にて交付）
事務局から各委員の紹介。
5号委員の市民公募による委員は、「該当者なし」となっている。

・事務局より出席委員数の確認

委員総数9名のうち、出席委員7名（後に8名）、欠席者1名となっており、和泉市社会教育委員会議規則第5条の規定に基づき、本会議は成立していることを報告。

2. 教育長挨拶

3. 教育委員会事務局組織及び事務局職員の紹介

事務局から資料に基づき教育委員会事務局組織について説明。事務局職員の紹介。

4. 議案

・議長及び副議長の選出

（事務局）和泉市社会教育委員会議規則第2条の規定では、委員の互選により議長・副議長を選出することとなっているので、委員の皆様にお計りする。

委員：これまでも議長・副議長として円滑な議事運営に努めていただいたので、引き続き議長は桃山学院大学の岩田委員、副議長は大場委員にお願いしたいと思うが、どうか。

⇒異議なしの声

議長は岩田委員に、副議長は大場委員に決定。

5. 報告

（司会進行：岩田議長）

報告（1）社会教育団体に対する補助金について

事務局から資料に基づき、補助金を交付している社会教育団体（和泉市文化協会、和泉市青少年指導員協議会、和泉市こども会育成連絡協議会、和泉市PTA協議会、和泉市こども会リーダークラブ）について概要説明

・和泉市文化協会は、美術部会・文芸部会・芸能部会・特別部会の4部会40部門、約2千名の会員が所属し、文化芸術振興のための教室や講座や開催、発表や展示に取り組んでいる

・和泉市青少年指導員協議会は、約200名の青少年指導員が所属し、市内21小学校区で活動。青少年に関する諸問題の研究等、地域に根ざした青少年の指導育成に取り組んでいる

・和泉市こども会育成連絡協議会は、15小学校区43単位の子ども会に1,336名の児童が所属。キックベースボールやソフトボール等により児童健全育成や福祉増進に取り組んでいる

・和泉市PTA協議会は、市内32小中学校・義務教育学校・幼稚園単位で活動、研究会や研修会、情報交換や各種調査を行い、幼児・児童・生徒の健全育成に取り組んでいる

・和泉市こども会リーダークラブは、役員11名で組織。キャンプやレクリエーション活動により交流を行い、リーダー活動に必要な知識や技術などの普及に取り組んでいる

※質疑事項なし

報告（２）和泉市生涯学習・スポーツ推進計画骨子案について

事務局から資料に基づき、和泉市生涯学習・スポーツ推進計画骨子案について説明。

計画の期間は、令和５年度から令和１４年度の１０年間。今後、計画策定委員会の開催を重ねながら定例教育委員会・市議会で報告を行い、１２月から１月にかけてパブリックコメントを実施し、３月中の完成を予定している。計画は、「生涯学習・スポーツを通じて、いつでも誰でもずっと元気で みんなで支え合う まちづくり」をテーマとし、持続可能でよりよい世界をめざす国際目標「SDGs」も盛り込む。和泉市教育大綱の体系に基づきスポーツ振興を含めた生涯学習全体の計画とし、文化遺産、久保惣記念美術館、読書振興、国際交流推進に関する内容も含めた内容で６章立てとなる。

第１章「計画の基本事項」は計画策定の趣旨、対象、他の計画等と本計画の位置づけと計画期間について、第２章「まちの現状と今後の課題」は社会情勢や国・府の現状、アンケート結果、課題と見直しの視点について、第３章「VISION 2032（めざすまちの姿）」はめざす将来像、一体的な計画として策定するにあたり分野横断的な取組みの基本方針・体系図について、第４章「生涯学習の推進」は学習環境の整備、学習機会の提供、生涯学習を通じたまちづくりと人材の育成・読書活動の推進について、第５章「スポーツの推進」は環境の整備、スポーツ活動の機会の提供、スポーツ活動を支援するまちづくりについて、第６章「計画の推進」は、計画の推進体制、計画の評価・検証について記載し、最後に資料編を掲載予定。

委員：今後、内容は膨らんでいくのか。

事務局：２日前に第２回目の計画策定委員会を開催し委員から種々意見を頂いたが、まだ骨子案には反映できていない。内容は今後も変わっていく。

議長：ページ数が多いので、今すぐに見て意見するのは難しい。後日、質問等ができる機会があれば是非設けてほしい。

事務局：骨子案のため、本日は一旦資料を回収すると事務局より申し上げたが、後日、委員の皆様には資料をお送りする。具体的な意見をいただきたいので、後ほどご案内する。

６．その他

議長：任期更新後、初回なので自己紹介を兼ねて教育や社会教育、地域活動等、普段の取組みや、この会議に関する意見について順にご発言いただきたい。

委員：光明台南小学校に勤めている。先日、３年ぶりに運動会を開催した。１年生～３年生は、これまで運動会を経験したことがなかった。紅白に分かれ、１家庭２名までの観覧という制限付きで開催。保護者・地域の方、職員、児童が一つになって目標を持ってできたということが、達成感がありとても良かった。民間施設を利用した水泳指導がモデル校としてスタートし、今年２年目を迎えた。教員も児童も安心して取り組むことができ充実している。今年は３年ぶりに、水泳記録会がコナミスポーツクラブで開催でき、児童達の励みになった。１０月１５日には、光明池グラウンドで陸上記録会が開催される。感染症対策を講じながら、児童も朝や放課後に練習に励んでいる。行事を工夫しながら積極的に開催していくことで、学校としても、児童も教員も目標を持てるということを実感している。

学校の体育施設を開放して、課外活動に取り組みされる団体があるが、これからエアコンが体育館に整備されれば特に、特定の団体に利用が偏らないようにすることが必要だと考える。体育施設の利用条件等を決めるにあたり、ここで話し合われると良いのではないかと思います。

委員：この会議で、我々の意見がどのような形でどれだけ反映されるのかが分からない。

生涯学習・社会教育と学校の関係でいえば、中学校は３点ほどある。１点目は、体育施設の貸出。２点目は前回の会議でも課題提起した部活動の指導。教員の働き方改革が言われる中で、文部科学省・府教委も動き始めている。諸課題があり、競技の種類によっても課題は異なるが、今後整理して進めていかないといけないと思う。３点目は、学習指導要領の改訂の流れの中で

体育の授業の考え方が変わってきていて、中学校では1・2年生の間にそれぞれの競技・種目を経験させ、3年生は将来自ら楽しんでスポーツを続けていくために、自分のやりたい競技を体験・検討させるための授業を進めるという、社会教育につながる内容になっている。

スポーツはそのように学校教育と関係があるが、生涯学習・社会教育となると文化的な部分や自治活動的な内容については、学校教育課程の中には入り切れていない。部分的には、総合的な学習の時間等に地域の方をゲストティーチャーとして迎える取組はある。また、今年は、アイ・あいロビーというボランティアを推進する団体が、市内小中学生を対象に、「自分たちのまちづくりに役立つアイデアを募集する」という企画を実施され、校内で募集したところ応募があったので参加させてもらった。そういった中で、地域との係わりというのは将来の学習というか、社会に出てから地域との係わりの中で学びつながっていくものだと考える。読書活動等の部分についても、卒業後、豊かな生活をどう送っていくか、個々に応じた生活様式・価値観が尊重される時代が来ると思うので、そうしたものに資することができればと思う。

議長：部活動のことは前回の会議でもお話いただいたが、確かに学校でしているスポーツが、その後もつながっていく仕組みにはなっていないのが現実だと思う。和泉市ではないが、私の子どもがサッカーをやっている、Jリーグ・セレッソの下部組織のようなどころに入っていたが、私の仕事の都合で海外に行くことになり、海外の地元サッカーチームに入ったところスポーツの仕方が全然違っていった。セレッソの方はプロになるための練習が重視され、楽しさを超えてやらなければならないが、海外の地元サッカーチームでは楽しんでプレーできた。帰国後、自分はプロにはなれないから楽しんでプレーしたいと言ったが、日本では中々そのような環境がない。当時は小学生だったが、地域で優勝をめざすというような団体しかなくて、楽しんで継続していくのは中々難しいということを実感した。競技として取り組むやり方もあると思うが、生涯にわたってスポーツを継続していく仕組みがあると良いと思う。私自身も、企業と連携するような授業を大学で行うが、地域活動とのコーディネートが教師個人がするのは大変なので、コーディネートへのサポートの仕組みがあれば、学校が地域と関わって活動できる機会が増えると思う。

委員：和泉市文化協会所属で数年前より社会教育委員を務めている。社会教育委員になるまでは、文化協会が社会教育5団体の一つだと知らなかった。文化協会の中でもそのような報告はなかったし、知らない人が多かったと思う。社会教育委員になってから、文化協会が社会教育5団体の一つだということや、市から多額の補助金を受けていることを、文化協会の中でも伝えるようにしている。他団体と比べて多額の補助金を受けているので、現状に甘んじずそれ以上のものを市民の皆さんや地域に還元していかなければならないと言い続けている。文化協会は高齢化でメンバーが減ってきており、継承者がいないためなくなる部会があるというのが現状。60年近い歴史がある文化協会のメンバーが減っていくのは淋しい。和泉市の文化が失われていくのは後々子ども達にとっても良くないということで、何かできることはないかと模索し、コロナ禍に陥る少し前には小中学校や幼稚園に行って指導や展示を行い、未来の子ども達につないでいこうという取組があったが、コロナのため一旦中断している。小中学校で文化的な取組の一つとして実施している鑑賞会には多額の費用がかかっていると思うので、和泉市にある文化協会を使って頂き、夏休みや放課後に鑑賞会を開いたり、一緒に作品を作ったりできればと思っている。和泉市にも人材の登録制度（※人材データベース）があると聞いているが、中々つながっていかないのは残念なこと。2・3年に一回、登録を呼びかけているとのことだが、高齢化によりインターネットで登録する作業が困難という現状もある。文化を少しでも幅広くつなげていくのが私達の役目だと思っている。

議長：せっかく文化協会が存在するのだから、色々な方にコーディネートしていくことができれば良いと思う。

委員：そのとおり。文化協会の中でも、補助金を受けて自分たちが活動できればそれで良いと考える人がほとんど。還元するということころまでは意識がいかない人が多いのは課題。

議長：多くの方に還元されるようになれば良いと思う。

委員：本委員会にはスポーツ推進委員協議会所属の委員もおられるが、担当部局はどこなのか。

事務局：生涯学習推進室の中のスポーツ振興担当が所管している。

委員：和泉市スポーツ推進委員会にも市から補助金が出ているのではないかと。報告1「令和4年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について」の団体には記載がないのは何故なのか。教育委員会の傘下にある協議会なら当然市から補助金を受けていると思うが、なぜここに掲載していないのか。別のところで予算措置されているのか。

事務局：社会教育法第13条に規定する団体には当たらないという認識である。

委員：しかしながら、以前は別々の課だったが現在は一つの室になっており、尚且つ教育委員会で所管し、予算措置もなされている。関連から考えて、スポーツ推進委員会補助金についても、社会教育委員会に知らせる方が良いのではないかと。

事務局：スポーツ推進委員については、補助金ではなく、委員報酬を支給している。社会教育委員会で審議される対象ではないと思うが、関連するものとして次の会議から提示するようにする。

委員：そのように願います。私は青少年の健全育成に携わっている。市内21校区から約10人ずつ出て頂き、200人ほどの青少年指導員で主にパトロールをしながら青少年への指導を行っている。昨今、青少年の薬物乱用が社会問題になっている。調べたところ、喫煙者は薬物に馴染みやすく、薬物乱用のきっかけはタバコであることが多いということが分かってきている。

薬物乱用の入口を塞ぐため、パトロール中に未成年の喫煙者を見つけたら注意し、タバコ販売業者に対しても未成年者には販売しないようステッカーを配布し、協力要請するよう200人の青少年指導員に促している。また、防犯協議会・少年補導員としても活動している。少年補導員は生涯学習ではなく、学校教育所管部署が所管している。前回の合同パトロールの時、少年補導員の方には学校担当部局から連絡が入ったが、その他の部門の方にはこちらから問い合わせるまで連絡がなかった。私は青少年指導員会長と少年補導員両方兼ねているのだが、青少年指導員と防犯委員の方には一向に連絡がなかった。全ての団体に同様に連絡してもらわないと、合同パトロールの主旨が生きてこない。この場を借りて申し訳ないが、今後はよろしく願いたい。

事務局：学校教育部と生涯学習部、学校との連携ができていないということは大きな課題。今後はよく確認して再発防止に努める。

委員：私も傘下に情報を下さなければいけない。少年補導員をしていたから分かったことだが、していなかったら当日まで分からなかった。今後気を付けていただきたい。

議長：スポーツや学校においても、社会教育が分かれてしまっているという課題があったが、法律的な問題など色々課題はあると思うが、できれば連携していければ。生涯学習とスポーツの推進計画を一緒にするのであれば、話し合う場等も考えていく必要があると思う。

委員：私もずっとこの会議に参加しながら、スポーツ推進委員会について、社会教育団体への報告に入っていないことについて疑問に思っていた。何か理由があるのだと思うが、取り上げてもらったことに感謝する。スポーツ推進の方では、人生100年時代を生き抜くために健康な高齢者、つまり健康寿命を延ばそうということと、子ども達にとって夢を持たせる、この2つを柱に、3部会を中心に活動している。「歩こう会部会」、「スポレク研修部会」、「走ろう会部会」

の3部会で市のスポーツ推進に取り組んでいる。

2年間、コロナの関係でほとんど実施できず、昨年度実施できたのは11月・12月のニューススポーツ2回のみとなる。1つ目、ニューススポーツは毎月、市民体育館とコミュニティ体育館で実施している。以前は桃山学院大学の体育館をお借りして実施していたが、現在はコロナの影響で使用できなくなり、市内体育館で実施している。これはスポレク研修部会が中心となって、毎月1回ニューススポーツを実施している。

2つ目は「歩こう会部会」で、毎年5月に年1回、他府県で10km～15km歩くイベントを実施している。参加する市民を公募しバス3台をチャーターして、5月の連休明けに実施していたが、コロナの影響で近年は実施できていない。今回、コロナが下火になったので、黒鳥山公園に集合し、歩こう会部会が中心になってイベントを実施したところ、40～50人の参加者があった。今後は、和泉市のことをもっと知ってもらおうということで、2回目は三林町の春日神社周辺を中心として松尾寺等を巡るコースを考えている。

3つ目は「走ろう会部会」で、3月末に年1回緑地公園で、小学生を対象とした走り方教室を実施しており、毎回40～50人の小学生が参加しているが2年間コロナで実施できていない。

他には、大阪マラソンやKIX泉州国際マラソン、信太山クロスカントリー、市民マラソン等のスポーツ行事への協力も長年実施してきた。コロナで2年間中止されていたが、今年度は4行事とも実施されるようなので協力する予定である。

最後にスポーツ推進委員会からのお願いなのだが、チラシ・パンフレットを校区長会議の時に配布して、町会を通じて各種行事の周知を図ってほしい。

議長：情報発信は世代によって取るべき手段を変えないといけない。年齢が高い世代向けには、ポスター・チラシを掲示板に貼る方法も有効かもしれないが、若い世代向けには、また違った情報発信の方法を取る必要があると個人的には思う。

委員：桃山学院大学経営学部所属で司書課程、司書資格を取らせる授業を担当していて、公立図書館の指定管理者制度や、LGBTQ向けのサービスを研究の専門としている。生涯学習推進室や久保惣記念美術館、和泉市立図書館とも連携を行っている。岸和田市、泉大津市、堺市とも連携事業を行っており、そういった研究や事業で得た知見をこの会議で還元したいと思う。図書館現場の職員や市民の方々、市職員が幸せになれるような何かを伝えられれば良いと思う。

委員：こども会育成連絡協議会から来ている。自治会やこども会の加入者が最近減っている。

自治会は高齢化しており、自治会に加入しない高齢者が増えている。また、新しく建てられた家の子どももこども会に入らないという状態で、自治会離れが進んでいる。この話は5年ほど前から、社会教育委員として勉強させていただくところで、学校を中心としたコミュニティスクールを作っていくという考えが社会教育の中にあるということ学び、活発化していくことを願いながら地域活動のコーディネーターをしたり、こども会活動や小学校単位のげんきっ子プラザの活動をしたり、アイ・あいロビーの職員をしたり、様々な活動をしている。コミュニティスクールに向けて機運が盛り上がってきいてきたところにコロナが発生し、しぼんでしまっているが、今後コロナの流行が収束したら、コミュニティスクールに向けて生涯学習と学校教育がうまく連携できるような活動ができれば良いなと思っている。

議長：私は社会学を研究しており、中でも教育社会学を専門にしている。日本の教育社会学は特殊で、学校の中だけを見る傾向が強い。私自身は元々専門が社会学なので、教育社会学の中でも独自に、学校に通う若い年代の研究を続けてきている。最近では、地方の若い人の研究をしていて、大阪からは遠い地域だが京都や、北海道、青森の若い人達の研究をしている。これまでは、都会の若者の研究が全体的に多く、私自身も都市や近郊の若い世代の研究を主にしてきたが、現在は地方の若い人達を、トランスローカリティという観点から研究している。人が生活している時に、例えば和泉市という区切りで政策等を考えがちだが、実際に人が生活していると、行政的な区切りが重要な場面もあるが、通勤や通学、買い物で移動するなど、行政的な区切りを超えて生活が展開していたりもするので、そのような移動も踏まえて生活を考えるという観点から研究を行っている。

大学では地域と関わって授業を行うこともあり、昨年度は、岸和田市の将来構想を市民会議で検討する場に学生と入って一緒に議論に参加した。今年度は、自治体ではなく企業、地域と関わっている企業ということで南海電気鉄道㈱と連携して、南海電鉄関連企業の商業施設を活性化していくという取組をした。和泉市にもできているが、どんどん巨大な商業施設ができてきている中、元々あった商業施設が苦戦しているのを、ただ単に商業施設を活性化するのではなく、地域の課題も解決していくような形で活性化していくということを学生と一緒に提案した。

また、無人駅が増えていて、現在、無人駅を上手く使って地域に貢献できるものを学生と一緒に考えている。単なる思いつきではなく、社会学や社会調査を使いながら提案していくという授業を行っている。

社会教育委員会議は、普段は中々自由に意見を述べていただく雰囲気にはなりにくいのだが、せっかく今お聞きしたように、様々な活動をされている委員が集まっているので、個人的には少しでも生涯学習やスポーツの推進に関してもプラスになるような議論ができればと私自身は思っている。

事務局：本日お配りした「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画骨子案」は一旦回収させていただくが、内容を整えたうえで後日、郵送させていただくので、ご意見を書面でいただきたい。

次回の会議は、2月～3月頃の開催を予定しており、また事前に日程調整させていただく。

議長：他に報告事項等あるか。特に無いようなので、本日の議事は全て終了した。本日の社会教育委員会議を終了とする。